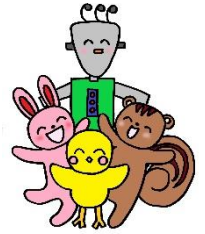


ステップ！3・4・5

札幌市立白楊幼稚園 No.2 令和5年10月



白楊幼稚園では、『幼保小連携・接続のよりよい推進のために』をテーマに、①『幼児の育ちを支える』②『幼児と児童の交流』③『教師同士の連携』の3つの視点で研究を進めています。今回は、具体的な取組についてお知らせします。

白楊小学校 研究会『実践をつなぐ会』に参加して

③教師同士の連携

様々な学年の授業の参観、分科会に参加させていただきました。

「子どもたちはこんなふうに学んでいる！」「小学校の授業はこんなふうに進められている！」「先生方はこう考えて指導している！」幼児期と似ている部分も違う部分もあるね…と、多くの学びがありました。

幼児期と小学校の
学びのつながりは？

(幼稚園教諭の気付きより)



「学ぶ喜び」は共通！

友達の考えを聞き、自分はどう思うか考えたり、その考えを伝えたりしているところは、幼稚園からのつながりを感じた。



一度きりではない、失敗を恐れずに、やり直しができるという園生活の中で、粘り強さや深く考える力が育まれる。

子どもが自分で見て、感じて、考えて行動する力を付けていくことが必要。



遊びがどうやったら楽しくなるのか、うまくいくのか考えを出し合うことは、算数の授業にもつながっている！



白楊幼稚園 札幌市私立幼稚園教育研究大会 公開保育

①幼児の育ちを支える

③教師同士の連携

幼児の主体性・
幼児の学びを考える

たくさんの幼稚園やこども園の先生方の他、小学校の先生に白楊幼稚園の子どもたちの遊びの様子を見ていただき研修しました。

教師が援助することで、皆がひとつの目的に向かい、仲間意識をもって楽しんでいった。(幼稚園教諭)



やりたいことを実現している姿が主体的！子どもたちのアイデアで遊びがつくられていた。(幼稚園教諭)

小学校低学年はもっとできるなと思った！指導に生かしたい。(小学校教諭)



小学校でも主体性を育てる取組を行っていますが、子どもたち自身の「やりたい！」という興味関心を引き出す関わりが大切なんだと学びました。(小学校教諭)



教師の学年を超えたチームプレーがあった。保育の質の向上には同僚性が必要だ。(幼稚園教諭)

子どもの発想ややりたい気持ちを大事にしていると、自分たちで考えて遊び進め、遊びが広がるのだと思った。(幼稚園教諭)



研究アドバイザー 藤女子大学 大室道夫先生をお招きして

大室先生より



《保育参観後、ご助言をいただきました》

- ・幼児教育は個別最適な学びである。子どもの思いや願いが叶えられている。『最適＝子どもに任せきり』ではない。教師が価値付けることが大事である。
- ・色水の変化を「時間が経つとこう変わった」と自分なりに見付けている子がいた。『自分なりに』が大事。生活科でいう『気づき』とは、自分なりの意味付けである。大人からすると間違いでも、生活科では認める。正しいか正しくないかではなく、自分なりの価値観を認め、自ら関わって見付けること自体を大事にする。そこが幼児教育とつながる。

(一部抜粋)

事例から考えよう
遊びの中の
学びとは？

事例 3歳児 6月「掘ったら水が出てくるんじゃない？」



いつものように砂場に水を溜めても、
しみ込んでいってなかなか溜まらない…。

自然との関わり
・生命尊重

「なんでだろう…?」と思ったA君はひらめきました！
「(水を入れたんだから) 掘ったら出てくるんじゃない?」

思考力の
芽生え

A君はひたすらスコップで砂を掘り続けました。

自立心

いつもは水が溜まるのに、
なんで？

小学校では粘り強く取り組む『自力解決』が大切にされている。幼児期に『やりたいことに向かって、諦めずやろうとする』
自立心
が育っていることで自力解決につながる。

大室先生 より



上のエピソードのように日々の遊びの中にたくさんの学びがあります。『**なんでだろう**』『**〇〇なんじゃないか?**』が遊びの中で育つ学びの芽なのです。小学校の学びにつながる姿は3歳児にも見られます。これからもこのような姿を大切に育てていきます！

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)



『10の姿』
詳しくはこちら